

6 労働衛生編（暑熱）

1. 危険性又は有害性の特定

第2章の【ステップ4】で特定された危険性又は有害性について、リスクアセスメント実施一覧表（労働衛生：暑熱）（様式6.84頁）を用いて実施する場合、「1 作業名」欄に作業名を記入し、その作業ごとに特定した危険性又は有害性とそれに起因する発生のおそれのある災害の内容を、「2 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害」欄に記入します。

また、リスクの見積りを行うに当たり、「3 既存の災害防止対策」欄に既存の予防措置を記入します。

2. リスクの見積り

リスクの見積り基準には、以下の文献を参考に作成しました。

1. 平成17年7月29日付け基安発第0729001号「熱中症の予防対策におけるWBGTの活用について」
2. 日本体育協会（1994）熱中症予防のための運動指針
3. 日本工業規格Z8504（人間工学－WBGT（湿球黒球温度）指数に基づく作業者の熱ストレスの評価－暑熱環境）附属書A「WBGT熱ストレス指数の基準値表」

（1）有害性のレベル分け

リスクアセスメント実施一覧表（労働衛生：暑熱）の「2 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害」ごとに、特定された① WBGT^{※1} 指数、② 乾球又は湿球温度が、表6-1の有害性のレベルのいずれに該当するか確認し、そのレベルを「4 リスクの見積り」の「有害性レベル」欄に記入します。

^{※1} WBGT（湿球黒球温度： *Wet Bulb Glove Temperature*）とは、熱中症になりやすい気象状況かどうかがわかる基準のことです。

WBGTの値は、湿球温度^{※2}と黒球温度^{※3}を測定し、また、屋外で太陽照射のある場合は乾球温度^{※4}を測定し、それぞれの測定値を基に次式により計算したものである。